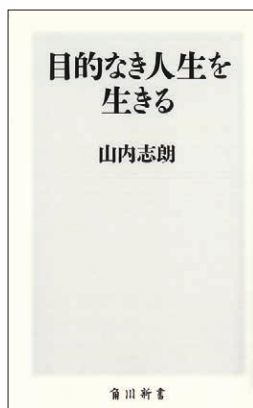


慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

「人生に目的はない」  
倫理学者が問う解放の哲学

『目的なき人生を生きる』

山内志朗（文学部教授）著  
角川新書／886円（2018年2月）



自分の人生の目的とは何だろうか？著者は「はじめに」で「目的を求めめる心は、『それは何のためだ、何の役に立つ？』と問わなければ、物事を始められない。しかし、人は生まれる前にその問いを立てたのか、死ぬ直前にその問いを立てるのか」と読者に問う。そして「人生の目的を指して生きようとするのは、宝くじ売り場で『一億円の当たる宝くじを一枚ください』と言うようなものだ」（第八章）と喝破する。「荒ぶる神」としてすべてを壊すゴジラの考察から始まり、目的論を徹底批判するスピノザの哲学に至る全8章。著者の深い洞察が時にユーモアの衣をまとってちりばめられた珠玉の哲学エッセイである。

教職員執筆の新刊

●諏訪正樹（環境情報学部教授）著

『身体が生み出すクリエイティブ』ちくま新書／907円（2018年2月）

●佐藤元状（法学部教授）著

『グレアム・グリーン ある映画の人生』慶應義塾大学出版会／3024円（2018年3月）

●鈴木透（法学部教授）著

『スポーツ国家アメリカ―民主主義と巨大ビジネスのはざま』中公新書

／929円（2018年3月）

●河内恵子（文学部教授）編著

『現代イギリス小説の「今」―記憶と歴史』彩流社／3024円（2018年4月）

●小林慶一郎（経済学部教授）編著

『財政破綻後―危機のシナリオ分析』日本経済新聞出版社／2160円（2018年4月）

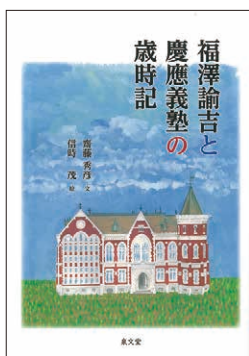
●中島隆信（商学部教授）著

『新版障害者の経済学』東洋経済新報社／1728円（2018年4月）

✂ 慶應義塾この一冊

『福澤諭吉と慶應義塾の歳時記』

齋藤秀彦（横浜初等部教諭）文  
信時茂（横浜初等部教諭）絵  
泉文堂／2916円（2018年4月）



近代史における福澤諭吉と慶應義塾の歩みに関わるエピソードを「歳時記」の体裁で文と絵で構成したユニークな一冊。立春から大寒までの「二十四節気」の章で構成され、福澤が「咸臨丸」で米国に渡ったのは冬から春に移り変わる「雨水」の季節であり、ウエーランド経済書講述記念日となった上野戦争が「立夏」の出来事だと知ると、それぞれのエピソードへのイメージが膨らんでくる。最初から通読するもよし、折に触れてその季節のページをめくるのも楽しい。